

5 紅茶の生産量増大に向けた摘採・整枝時期の検討

1 課題を取り上げた理由及び目的

緑茶の需要低迷に対応するため緑茶製造ラインを活用した効率的な紅茶製造により紅茶の生産量を拡大しつつあり、栽培される3品種のうち「そうふう」「サンルージュ」を緑茶製造、「ベにふうき」は紅茶製造することとなった。紅茶製造する「ベにふうき」と緑茶製造を行う「サンルージュ」は共に中生品種であるため、収穫・製造期が重複する可能性がある。茶工場内の製造ラインにおいて紅茶と緑茶のコンタミネーションを回避するために収穫・製造期の見直しが必要となった。そこで、秋整枝時期の早晩が一番茶生育・収量に与える影響を調査し、収穫・製造期の重複回避策を検討することとした。

2 実証の概要

(1)設置場所 天城町西阿木名

(2)実証期間 令和5年10月～令和6年11月

(3)供試作物 茶

(4)耕種概要

供試品種及び樹齢 ベにふうき22年生、サンルージュ12年生

(5)区の構成 表1のとおり。

表1 区の構成

品種名	秋整枝の 早晩	前年の秋 整枝日
ベにふうき	早い	11/9
	慣行	11/17
	遅い	11/23
	極遅い	12/21
サンルージュ	早い	10/13
	早い	10/15
	遅い	12/7
	遅い	12/7

(6)調査方法 前年秋整枝時期が異なる3品種の各茶期の摘採時期、収穫量を調査する

3 調査結果

表2 一・二番茶生育及び収量

品種名	秋整枝の 早晩	一番茶				二番茶		
		萌芽日	摘採日	生育日数	収量	摘採日	生育日数	収量
ベにふうき	早い	3/23	5/8	46	778	7/1	54	558
	慣行	3/30	5/16	47	452	7/15	60	639
	遅い	3/25	5/13	49	475	7/13	61	640
	極遅い	3/25	5/20	56	496	7/22	63	1050
サンルージュ	早い	4/6	4/25	19	178	6/3	39	198
	早い	3/28	4/19	22	179	6/7	49	156
	遅い	3/27	4/22	26	150	6/10	49	219
	遅い	3/30	4/23	24	150	6/18	56	172

表3 三番茶・秋番茶生育及び年間収量

品種名	秋整枝の 早晚	三番茶			秋番茶			年間収量
		摘採日	生育日数	収量	摘採日	生育日数	収量	
べにふうき	早い	8/22	52	441	11/14	84	487	2,264
	慣行	9/11	58	620	11/18	68	388	2,099
	遅い	9/20	69	568	11/23	64	111	1,794
	極遅い	9/25	65	472	11/28	64	56	2,074
サンルージュ	早い	8/17	75	-	10/30	74	-	376
	早い	8/19	75	-	10/31	73	-	335
	遅い	8/13	64	-	10/29	77	-	369
	遅い	8/16	69	-	10/29	74	-	322

- (1) 秋整枝の早晚が一番茶萌芽期の早晚に与える影響は、べにふうきが3/23～30、サンルージュが3/27～4/6となり、同一品種では明確な差が認められず2品種間ではサンルージュが若干早い傾向であった。
- (2) 一番茶摘採期は、べにふうきが萌芽期から46～56日、サンルージュが19～26日とすることで2品種の摘採・製造期の重複を回避できた。
- (3) 一番茶収量は、べにふうきの秋整枝区が早い区の収量が多く、慣行区から極遅い区では秋整枝が遅くなるにつれて同等の収量を確保するのに要する生育日数が増加した。サンルージュの一番茶収量は、べにふうき同様、秋整枝時期が早い区の収量がやや多く生育日数も短い傾向であった。
- (4) 二番茶の生育および収量は、べにふうきでは秋整枝が早い区の生育日数が短縮されたものの収穫量は少なかった。サンルージュは秋整枝の早晚による収穫量の差は認められなかったものの生育日数は短縮される傾向であった。
- (5) べにふうきの三番茶生育及び収量は、一定の傾向は認められなかったものの生育日数は秋整枝が遅くなるにつれて増加する傾向であった。
- (6) べにふうきの秋番茶は、生育日数を確保できた区で収穫量が多い傾向であった。また、年間収量は秋整枝早い区で多い傾向が認められたものの、極遅い区でも慣行区と同等の収量を確保した。

4 考察

- (1) 紅茶製造仕向けべにふうきと煎茶製造仕向けサンルージュの収穫・製造期を回避するために前年秋整枝時期を調整して確認した。共に中生品種であるべにふうきとサンルージュの萌芽期はサンルージュがやや早い傾向であった。また、収穫期をサンルージュで萌芽から20日程度、べにふうきを萌芽期から47日にとすると、製造期の重複を回避できた。
- (2) 茶生育に与える影響は、2品種共に秋整枝が遅い区で各茶期の生育日数が増加する傾向がうかがわれ、特にべにふうきでは年間を通じて生育が遅延する傾向となり秋番茶収量が少なくなったことから葉層を確保できておらず樹勢低下を招く結果となった。

5 残された課題

コンクール出品に向けた香りに特徴があるべにふうき紅茶の製造法について一・二番茶で検討する必要がある。

6 実施者 大迫 剛太